



○聖書にふれる会（センター教員・李元重）

「聖書を読む」とは、「聖書に聞く」ことでもあり「聖書に問う」ということです。聖書は、歴史の中で神が人間に語りかけた記録でもあるからです。その神は今もなお聖書を通して、わたしたちとの出会いを求めておられると考えています。新約聖書の「ルカによる福音書」にふれることで、その神とご自分を少し見つめ直してみませんか。お気軽にお越しください。

（毎週火曜日 13：15～14：00）  
同志社京田辺会堂 光館(HIKARI-KAN)チャプレン室

○聖書を学ぶ会（センター教員・森田喜基）

聖書には私たちの人生を照らす言葉や、深いメッセージが詰まっています。この会は月一回程度の開催で、よく知られている聖書のトピックを学びます。春学期は旧約聖書から、秋学期は新約聖書を紐解きます。いろいろな聖書翻訳の読み比べや話し合いを通して、皆さんと一緒に学びを深めていく会です。聖書に少しでも興味があれば、ぜひ一度覗いてみてください。

（開催日、場所等についてはキリスト教文化センターWebサイト、学内掲示板をご覧ください）

○スタートアップ：聖書の扉（チャプレン・川江亜希子）

辛い時、悲しい時、苦しい時、自分の行き場が見つからない時。自分自身をすぐに変えられることができない時があると思います。けれども、ある時ふと出会う言葉や人によって、新しい視点が与えられる時があります。そんな新しい視点との出会いを、聖書を開いて見つけてみませんか。聖書の言葉を知る時間、どなたでもお越しください。途中入室も大丈夫です。

（毎週金曜日 13：15～14：00）  
同志社京田辺会堂 光館(HIKARI-KAN)チャプレン室

○聖書を味わおう（チャプレン・仲程愛美）

聖書はこれまで時を超え、場所を超えて読み継がれてきました。さまざまな事柄が記されているこの書物を手にも、人々は語り合い、喜び合い、励まし合い、時に疑問を持って追求しました。一人でじっくりと読むのも良いですが、誰かと感想を分かち合いながら読むことも、新しい発見や気づきがあり魅力的です。聖書の「ことば」や「人物」に出会いながら、ご一緒に聖書を“味わい”ましょう。

（毎週金曜日 13：15～14：00）  
クラーク記念館1階ラウンジ

各行事は都合により、変更になる可能性があります。  
最新情報は、キリスト教文化センターWebサイト、学内掲示板をご覧ください。

お知らせ

○Doshisha Spirit Week 2024 春

6月10日（月）～6月15日（土）  
同志社大学の歴史や建学の精神、新島襄についての講演など、同志社を学び、知るための企画を行います。創立の志に触れる1週間です。それぞれの会場を含め詳細については、キリスト教文化センターWebサイト、学内掲示板をご覧ください。  
〈京田辺校地〉

6月10日（月）12：30～13：00  
演舞 同志社大学応援団  
場所：ローム記念館 劇場空間  
6月12日（水）12：35～13：00  
ランチタイム・チャペル・アワー  
同志社香里中学校・高等学校聖書科教諭 富田 正樹

「未完成というアドバンテージ」  
会場：同志社京田辺会堂 言館(KOTOBA-KAN)礼拝堂  
6月13日（木）13：10～14：40 講演会  
日本キリスト教団高槻日吉台教会牧師 吉岡 恵生

「同志社『尖り』が時代を拓く」  
会場：同志社京田辺会堂 言館(KOTOBA-KAN)礼拝堂

2024年9月中旬まで  
同志社京田辺会堂 光館(HIKARI-KAN)ラウンジ展示第19期展  
「新島襄と自然科学  
—同志社のキリスト教主義と科学—」  
会場：同志社京田辺会堂 光館(HIKARI-KAN)ラウンジ  
〈今出川校地〉

6月11日（火）12：35～13：00  
出張チャペル・アワー（新町キャンパス）  
キリスト教文化センター准教授 森田 喜基  
「一人一人大切ナリ」  
ヴァイオリン演奏：  
バークリー音楽大学生 山根 基嗣  
会場：新創館 アカデミックプラザ

6月12日（水）10：50～11：30  
チャペル・アワー  
宣教落語家  
ゴスペル亭パウロ（本名：小笠原 浩一）  
「新島襄・八重と同志社大学」  
会場：同志社礼拝堂

〈オンデマンドによる講演会〉  
6月10日（月）～15日（土）  
共愛学園前橋国際大学宗教研 古澤 健太郎  
「共に愛し合う精神  
～同志社が上州に蒔いた種」  
※配信先はQRコードからアクセスしてください。



# チャペル・アワー案内

2024年6月1日

No.264

同志社大学

キリスト教文化センター

京田辺  
0774-65-7370

今出川  
075-251-3320

本センター  
Webサイト  
<https://www.christian-center.jp/>



「タマネギころころ」

切り絵  
中谷隆志

春学期チャペル・アワー統一テーマ

「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください。」  
（イザヤ書 6章8節より）

不安や心配を抱えながらも託された「事柄」をやり遂げなければならぬ場面があります。幼い頃の経験でいうと「おつかい」がそうかも知れません。歳を重ねればその事柄はさまざまですが、共通するのは責務を果たし、送り出した元へ戻ることです。「おつかい」で頼まれた物が探せず、気持ち沈んでも帰路には着きます。結果はどうあれ送り出した人の元へ戻るのです。

「わたしを遣わしてください」と神に応えた預言者イザヤ。神の言葉を蔑ろにする王を批判し、国の滅亡を預言します。周りからは理解されず孤独の中、語り続けます。しかし、イザヤはこの役目を投げ出すことをしませんでした。自分を遣わしてくれた方、戻るべき揺るぎない存在があったからです。何より、神は最後には希望を語られるのを知っていたからです。

私たちはそれぞれの人生において「遣わされて」います。進む道がいつも平坦とは限りません。混迷する時もあります。それでも「わたし」を遣わしてくれた方がいることで、結果はどうであれ、そこに戻り、慰められ癒され勇気づけられ、また歩き出すことができるのではないのでしょうか。

（キリスト教文化センターチャプレン 仲程 愛美）

## チャペル・アワー

年間実施予定 春学期…4月12日(金)～7月17日(水)

秋学期…10月1日(火)～2025年1月17日(金)



◎チャペル・アワーは礼拝堂で行うとともに、各校地隔週で一部をYouTube配信を予定です。当日の奨励題や配信のスケジュールなどについては、キリスト教文化センターWebサイト、学内掲示板をご覧ください。

◎チャペル・アワーに参加の方は、会場入口に掲示する注意事項を遵守してください。

◎音声や文字などによるサポートが必要な方は、実施日の2週間前までに各校地の事務室までお知らせください。

### スケジュール(春学期後半)

#### 京田辺校地

月/日	奨励者
6/4	日本キリスト教団城陽教会牧師 松田 祈
6/11	日本キリスト教団南大阪教会牧師 尾島 信之
6/18	日本キリスト教団香里ヶ丘教会牧師 渡辺 圭一郎
6/25	日本キリスト教団能登川教会牧師 谷 香澄
7/2	日本キリスト教団城陽教会牧師 松田 祈
7/9	日本キリスト教団香里ヶ丘教会牧師 渡辺 圭一郎
7/16	日本キリスト教団南大阪教会牧師 尾島 信之

水曜ランチャタイム・チャペル・アワー  
同志社京田辺会堂  
言館(KOTOBARAKAN)礼拝堂 毎水曜日12時35分～13時

月/日	奨励者
6/5	日本聖公会大阪教区大阪聖三一教会司祭 金 頭昇
6/12	Doshisha Spirit Week 2024 春 同志社香里中学校・高等学校聖書科教諭 富田 正樹
6/19	日本キリスト教団交野教会牧師 高陽 鐘翼
6/26	キリスト教文化センター准教授 李 元重
7/3	心理学部教授 興津 真理子
7/10	心理学部長・心理学研究科長 青山 謙二郎
7/17	キリスト教文化センターチャプレン 仲程 愛美

月/日	奨励者
6/7	日本キリスト教団箕面教会牧師 家山 華子
6/14	日本キリスト教団高槻日吉台教会牧師 吉岡 恵生
6/21	キリスト教文化センターチャプレン 川江 亜希子
6/28	日本キリスト教団阿倍野教会牧師 山下 壮起
7/5	日本キリスト教団箕面教会牧師 家山 華子
7/12	日本キリスト教団高槻日吉台教会牧師 吉岡 恵生

#### 今出川校地

月/日	奨励者
6/4	同志社女子大学現代社会学部教授 山下 智子
6/11	※Doshisha Spirit Week 2024 春 バークリー音楽大学生 ウェイオリン：山根 基嗣 キリスト教文化センター准教授 奨励：森田 喜基
6/18	同志社女子中学校・高等学校聖書科教諭 生田 香緒里
6/25	日本聖公会大阪教区大阪聖三一教会司祭 金 頭昇
7/2	ビジネス研究科教授 飯塚 まり
7/9	※音楽礼拝 シンガー・ソングライター 福原 タカヨシ
7/16	同志社中学校・高等学校聖書科教諭 桜井 希

水曜チャペル・アワー  
クラーク・チャペル 毎水曜日10時50分～11時30分

月/日	奨励者
6/5	キリスト教文化センターチャプレン 川江 亜希子
6/12	※Doshisha Spirit Week 2024 春 宣教落語家 ゴスペル亭パウロ(本名：小笠原浩一)
6/19	日本キリスト教団久宝教会牧師 水谷 憲
6/26	日本キリスト教団高槻日吉台教会牧師 吉岡 恵生
7/3	神学部准教授 三輪 地塩
7/10	※音楽礼拝 神学部長・神学研究科長 歌：関谷 直人 神学研究科生 奨励：滝口 大気
7/17	経済学部長・経済学研究科長 横井 和彦

金曜ランチャタイム・チャペル・アワー  
同志社礼拝堂 毎金曜日12時35分～13時

月/日	奨励者
6/7	神学部教授 越後屋 朗
6/14	日本キリスト教団豊中教会牧師 山崎 道子
6/21	日本キリスト教団同志社教会牧師 菅根 信彦
6/28	日本キリスト教団平安教会牧師 小笠原 純
7/5	神学部教授 越後屋 朗
7/12	日本キリスト教団豊中教会牧師 山崎 道子

エッセイ

### 『効率化と社会的紐帯』

藤本昌代

近年、「タイパ」(タイムパフォーマンス)と呼ばれる時間的効率化を好む若者の行動が語られています。しかし効率化、合理化は、若者に限らず、どの世代にも指向され、人と人との関係性にも影響を及ぼしてきました。今から約4半世紀前の2000年にアメリカの研究者が、かつては友人同士で楽しむ娯楽だったボーリングを一人で行う人々が増えていくことに気づき、コミュニティとのつながり(社会関係資本、社会的紐帯)を弱めていく現代人の状態を多様な要素から分析しました。その著書の中には教会に行かないという自身の行動に対する信仰心の弱さへの免罪符としてオンラインからのクリックで寄付をする人々が描かれています。毎週日曜日に教会で神に祈りをささげる行為は、本来の目的である信仰的行為(顕在的順機能)ですが、それは、間接的に信者同士のコミュニティ形成(潜在的順機能)につながっていました。そして教会に行くという行為が省略されると、教会で形成されていたコミュニティの関係性は希薄化してしまいました。

その後、ドイツの研究者らも、現代社会ではかつて日常に枠組みと規則を与えてきた家族や村落共同体、宗教、地域等々がつながりを弱め、個人は自由に選択できる代わりに、何もかも自分で決めなければならないとなったと述べています。これまでコミュニティの中で行われていた「だいたい見当がついていた事柄」はもう共有事項ではなく、また、それを誰か(コミュニティのメンバー)に尋ねやすい状態でもなく、自分で調べたらわかるかもしれないことを「知人に尋ねにくい関係性」が広がっているといえます。いろいろな制度の中の自由は、自分でそれらのルールを全て学び、間違うと自己責任として損失を直接受けなければいけないという厳しさがあります(制度化された個人化)。オンライン上の関係性だけで「タイパ」のよい友人関係は、困った時に助けてくれる「誰か」であるかもしれませんが、躓いた時に直接的に手を差し伸べてくれる友人が傍にいない生活になり、何にも守られない個人になってしまふことを警告する社会学者もいます。

近年は若者だけでなく、中高年も個人化が進み、たとえば、過疎地域では高齢者同士でもコミュニケーションする機会が減少し、相互扶助が消失している現象が見られます。コミュニティ、人と人との関係性を維持することは、若者だけでなく中高年も面倒になりがちです。どんどん利便性の高いツールが発達してくる中、私たちは面倒でも、大切な存在を手から零れ落ちないように意識することが重要ではないでしょうか。

(ふじもと・まさよし社会学部教授)

※今出川校地の6/11火曜チャペル・アワーは、出張チャペル・アワーです。

※12時35分～13時、新創館アカデミックプラザで行います。

※今出川校地の6/12、7/9、7/10チャペル・アワーは、同志社礼拝堂で行います。